効果バツグン！模擬試験の100%活用法

秋から多くの模擬試験（模試）が実施されます。どのように利用すると、力をのばすことができるのでしょうか。効果的な活用法について、麻布個人指導会の教務スタッフと4科の先生に聞きました。　（協力・麻布個人指導会）

ポイント1 同じ模試を受けるのが基本

公開模試はいくつかの大手塾が実施していますが、同じ模試を受けていくのが基本的なスタイルです。理科や社会のように多くの単元がある科目の場合、3、4回の模試ですべての範囲をカバーする構成になっています。同じ模試を受けることで、自分が得意とする単元や苦手にしている分野をとらえられます。

もちろん、別の模試を受けるメリットもあります。ふだん受けている模試とは出題傾向や形式が異なり、初めて見る問題と向き合うときの練習になります。

注意としたいのが受けっぱなしにしないこと。まちがえた問題を復習して「穴」をなくすことが模試を受ける目的の一つです。より返る時間を確保するためにも、月に1回程度のペースで受けるのがおすすめです。

ポイント2 具体的な目標をかかげる

模試を受けるとき、あらかじめ目標を定めます。たとえば、とくに力を入れて取り組んでいる分野については「8割以上の得点をめざす」といった感じです。とても手が届かない内容にするのではなく、「計算ミスをしない」「解答をていねいに書く」など、より具体的で実現できるものにします。

「あれもこれも」とかかげるのではなく、1科目について二つぐらいにしぼるのが大事。達成できれば自信につながり、勉強に対して前向きな気持ちになるにちがいありません。

なかなか思い浮かばないという場合、塾や家庭教師の先生に相談してみます。受験生の勉強の進み具合や、得意・不得意をふまえたうえで、アドバイスしてもらえます。

ポイント3 はやめの復習が効果的

模試を受けたら、はやめに復習に取り組みます。自分がどのように考えて解答したのか記憶が残っているうちに取りかかるのが効果的。模試を受けていると、問題用紙の余白に自分の解答を書いておくといいかもしれません。

帰宅したら、模範解答と照らし合わせて、さっそく採点。まちがえた問題は解き直し、解説を読んで理解を深めます。

答案などが返却されたものも一度、見直します。全体の正答率が高いのにまちがえた問題は、とくに注意が必要です。そのままにしておくと、ほかの受験生との差が広がる心配があります。基本に立ちかえり、しっかり復習することが大かせません。どこでつまずいたのか原因をとらえて、同じミスをくり返さないようにします。

ポイント4 結果に一喜一憂しない

成績表には偏差値や志望校の合格可能性などが示されます。結果に一喜一憂しないことが重要です。

これまでの取り組みで力そのものは高まっているのに、その成果が成績にあらわれないということがよくあります。「知識の整理」が追いつかず、身につけた力をどう使えばいいのかわからないのです。この時期にあせりを感じる必要はなく、秋以降の模試で成績が急上昇する受験生も少なくありません。

ある母親から「模試の成績が悪かったのに反省のそぶりが見られない」と相談されたことがあります。でも、生徒自身は私たちの前で悔し涙を流していました。平然としていたのは「母を心配させたくなかったから」。保護者は子どもを温かく見守ってほしいと思います。

4科の模試活用法

国語　解答するときの時間配分に注意

西村　和子先生

問題を解くとき、時間の配分に気をつけます。よくあるのが、読解問題にこだわり、知識分野の問題を解く時間が足りなくなった」というパターン。読解文で文章の細部にまでこだわる受験生が効率よく解こうとして、結果的に時間がかかってしまいます。

模試でも本番の入試でも、問題の文章（素材文）を読むに連解する必要はありません。「解答」を探すように、「ざっと」読みます。

これは逆に、国語を得意とする受験生が効率よく解こうとして、結果的に時間がかかってしまいます。

「知らない言葉が出てくると考えこむ」ということが挙げられ